

第 1 部 質疑応答概要

	市民意見（要約）	市長回答（要約）
1	<p>日中韓の歴史をもっと交流できたらよいのではないか。東アジア文化都市事業での歴史交流の位置づけはどうか。</p>	<p>歴史をテーマとする直接のプログラムは、文化庁にプレゼンするときにはなかったが、それぞれの分野で、この事業を進めていくと、日中韓のこれまでの交流の歴史的なエピソードや成果、未来志向の新しい課題などが、それぞれの分野で浮上するのではないかと思う。</p> <p>例えば、中国・韓国との関係でいくと、中国とは、「漢字」で共通の世界があり、韓国とは、「世界記憶資産」に昨年選ばれた「朝鮮通信使」のように非常に平和的で友好的な歴史のエピソードが残されている。そのように、それぞれの分野において、日中韓のそのような歴史にも触れて、未来志向で友好を深めるような感動が残るレガシーとなればよいと思っている。</p>
2	<p>これからの北九州市を担う、未来の子どもたちにも、ぜひ事業にも参加していただきたいと思っているが、市長はどのように考えているか。</p>	<p>いろいろなプログラムを通じて、青少年の楽しい交流の機会をつくり、その青少年の交流の成果がレガシーとして残るような工夫が必要だと思っている。</p> <p>また、北九州市の文化振興計画の中に、シビックプライドという言葉があるが、要するに「わがまちへの愛着と誇り」と、これを大切にしようということを原点に改めて確認した。それに基づいて、今年度からは小学校3年生全員が、少人数グループに分かれて、1度は市立美術館の作品に触れる、ミュージアムツアーということを開始した。これからも、青少年の子どもたちに、いろいろな文化の感動が行き渡っていくようにしたい。</p> <p>また、詩のコンクールや、青少年を対象にした発信のチャンスを作るために、いろいろと始めている。そのようにして、子どもたちの文化芸術の参加やチャンスをつくっていくことが大事だと思っている。</p>